

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号

<https://uminoko.jp/>

「うみのこ」での新しい学習1

【所長 小野澤 稔香】



新しい「うみのこ」での新しい学習の様子を紹介します。

まずは、デジタル顕微鏡やタブレットを使った「プランクトンの観察」です。新船には、デジタル生物顕微鏡が8台整備されました。これまでからも、顕微鏡を使つてのプランクトンの観察は行われてきました。一人が一台の顕微鏡を覗き込む形の学習は、待ち時間が多く発生し

ていました。新しい、デジタル

生物顕微鏡は、タブレットに接続することができ、一度に何人もの児童が同時に観察することができます。また、鮮明な画像が映し出されるので、学習のしおりと見比べたり、電子図鑑で調べたりすることで、プランクトンの名前も見つけ出すことが可能です。

「これは、ビワクンショウモやで。」「すごい見つけたで!」「びわ湖の固有種って書いてある。」などと、目を輝かせながら観察しています。

次に、「衛星写真シート」をご紹介します。人工衛星から撮影した滋賀県・びわ湖と近隣の府県の写真が大きなシートに印刷されたものです。船内で一番広い部屋「多目的室」の中央に敷いておくことが可能です。大きな衛星写真を見た子どもたちは（大人たちも同様ですが）、

まずその大きさに圧倒されます。次に、知っている場所や建物を探し始めます。「僕たちの学校はどこかな?」「この辺と違うかな?」「これが、〇〇の工場やから、、、」といった具合にみんなで覗き込み、やがて学校を見つけ出します。

すると、興味は次々に広がっていきます。場所見つけだけでなく、「この辺りは、町じゃなくて、田んぼが広がっているよ。」「びわ湖の西の方は、湖の直ぐそばまで山がせまっているね。」と地形の特徴や町の様子にも気づいていきます。先生方からは、「学校の近くの△△川はどう流れているのかな?」とか、「昨日見た、多景島はどれ?他の島はどこかな?」と、びわ湖学習に結びつける質問も投げかけられます。

さらには、航海の途中で採水した各所の湖水を、衛星写真シート上に置き、それぞれの場所の水の様子を比べる学習を展開するなど、様々に活用しています。

